

資料 3-1

平成 20 年度 ExTEND2005 基盤的研究、野生生物の生物学的
知見研究及びフィージビリティースタディー 合同成果発表会
プログラム

(開場 9:30)

(開会・概要説明 10:00-10:15)

(敬称略)

発表時間 区分	代表研究者	所属	研究課題名
10:15-10:30 20F S 1	由井正敏 (代理) 千葉啓子	岩手県立大学 総合政策学部	魚食性猛禽類「ミサゴ」の生態と その食物連鎖に関する基礎的研 究
10:30-10:45 20F S 4	安住薫	北海道大学大学院 薬学研究院	海産無脊椎動物ホヤのトキシコ ジェノミクス基盤研究と生態調 査
10:45-11:00 19F S 3	白岩善博	筑波大学 生命環境科学研究 科	シャジクモ類の衰退要因解明に 向けた環境負荷化学物質の影響 に関する生理・生態学的研究
11:00-11:15 19F S 4	高瀬稔	広島大学 理学研究科	両生類の性ホルモン様物質暴露 による精巣卵形成についての研 究
11:15-11:30 野生 1	濱口哲	新潟大学 自然科学系	野生メダカの性分化異常に関わ る基礎的情報の収集と解析
11:30-11:45 野生 2	堀口敏宏	国立環境研究所 環境リスク研究セ ンター	東京湾における生態系かく乱の 実態解明とその要因解析

* 発表時間には質疑 5 分を含む。

(昼食 11:45-13:00)

(敬称略)

発表時間 区分	代表研究者	所属	研究課題名
13:00-13:15 野生 3	上田哲行	石川県立大学 生物資源環境学部	アカトンボ減少傾向の把握とその原因究明
13:15-13:30 20F S 3	有菌幸司	熊本県立大学 環境共生学部	メダカの再生産に及ぼす化学物質およびその代謝物の影響とトキシコゲノミクスによる作用機序の解明
13:30-13:45 基盤 2	中西剛	岐阜薬科大学 衛生学研究室	胎児期におけるエストロゲンシグナルの gain of function とその性分化の可塑性
13:45-14:00 基盤 1	青山博昭	残留農薬研究所 毒性部	哺乳類を用いた毒性実験の結果に影響を及ぼす実験動物の遺伝的要因解析
14:00-14:15 基盤 3	太田茂 (代理) 杉原数美	広島大学大学院 医歯薬学総合研究 科	胎仔期、新生仔期の食餌による環境化学物質代謝・排泄機能への影響調査
14:15-14:30 基盤 4	鯉淵典之 (代理) 下川哲昭 岩崎俊春	群馬大学大学院 医学系研究科	核内ホルモン受容体による転写調節における環境化学物質の作用機構

*発表時間には質疑5分を含む。

(休憩 14:30-14:45)

(敬称略)

発表時間 区分	代表研究者	所属	研究課題名
14:45-15:00 基盤 5	岩田久人	愛媛大学 沿岸環境科学研究 センター	野生生物のリスク評価を目指した核内受容体リガンドの網羅的解析法の開発
欠席 基盤 6	長濱嘉孝	自然科学研究機構 基礎生物学研究所	メダカの生殖内分泌系に及ぼす化学物質の内分泌かく乱作用の作用メカニズムに関する研究
15:00-15:15 19F S 1	徳元俊伸	静岡大学 理学部	ステロイド膜受容体を標的とした化学物質の内分泌かく乱作用に関する研究
15:15-15:30 19F S 2	原俊太郎	昭和大学 薬学部	精子に存在するホスホリパーゼ A ₂ 活性の阻害を介した環境化学物質の新たな内分泌かく乱作用機構に関する研究
15:30-15:45 20F S 2	大迫誠一郎	東京大学 医学系研究科	化学物質誘発性のエピジェネティック修飾による DOHaD モデルの検証
15:45-16:00 20F S 5	早川和一	金沢大学 医薬保健研究域薬 学系	多環芳香族炭化水素類の内分泌かく乱作用の構造活性相関に基づく魚鱗の化学物質スクリーニング法に関する研究

*発表時間には質疑5分を含む。